

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年9月8日～9月14日)

2020年9月15日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領、プーチン露大統領とソチで会談(9/14)
- ロシア、ベラルーシへ15億ドルの再融資を決定(9/14)
- ミンスク市内での「英雄の行進」に10万人以上が参加、774名が拘束(9/13)
- ルカシェンコ大統領、メーゼンツェフ駐ベラルーシ露大使と会談(9/10)

【ルカシェンコ大統領動静】

●プーチン露大統領とソチで会談(9/14)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・合意を履行していることではなく、あなた方が誠実に対応していただいていることに謝意を表明する。今ベラルーシで起きている事は、マスメディアで取り上げられているようなものではない。貴大統領は、経験豊富で、私以上にメディアの見せ方を理解しているであろう。今実際に何が起きているのか詳細をお伝えしたい。

・私は、土曜日の女性達の行進や日曜日の行進を笑っている。平日、我が国は通常通りである。土日は、人々が歩けるようにミンスク市内の一部を開放している。重要なのは、一線を越えないことである。今のところ、この線を越えた者はいない。

・今回の出来事は、ベラルーシやロシアだけではなく、旧ソ連諸国にとって教訓である。これについて、ユーラシア経済同盟、集団安全保障条約、CISの枠組みで話したい。

・我々は実際に集団保障条約に沿って平等に歩んだ。(一連の騒動の中で)闘いもなく、銃撃もなく、棒を投げることもなかったが、我々の決意を示した。仮にベラルーシ国境で誰かが喧嘩を売るなら、我々はいつでも相手になる。

・連合国家創設条約の作成と発展にあたり、我々は計画通り段階的に進んできた。両国と両国民は常に友好的である。

・経済は全ての根幹にある。直近の出来事は、ベラルーシが、兄であるロシアとさらに密接に協力する必要があることを示した。ロシア人約1千万人が、ベラ

ルーシ企業と大なり小なり関連のある企業に勤めている。一家族が4名で構成されていると仮定すると、4千万人ものロシア人がベラルーシ企業と関係がある。一方で、我が国は、原料、部品、その他物資についてロシアと関連しており、製品の48%をロシア向けに販売している。

・先日ミシュスチン露首相がミンスクを訪問し、多くの合意に到達した。幾つかの課題については、貴大統領との会談に合わせ後に回した。

・安全保障について、防衛関連企業の設立が必要であろう。貴国メディアとのインタビューで、ロシア・ベラルーシ関係の如何なる問題についても口論することが出来ると述べたが、防衛と安全保障については、口論や疑いを招いたことは一度もない。我々は共同演出を実施してきたし、今後も実施し続ける。

・新型コロナウイルス感染拡大に関して、欧州における第二波が第一波より強力なものとなる可能性を除外できない。貴国がベラルーシにワクチンを供給してくれたこと感謝申し上げます。第二波が来ないように準備するが、新型コロナウイルスがインフルエンザウイルスと重なることを恐れる。

(9/14 大統領公式ホームページ)

●国家安全保障会議会合を実施(9/12)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・ポーランドとリトアニアにいるNATO軍が訓練を終えたなら、適切に対処すべき。我々にとって、必要も無いのに大規模な軍を長らく置いておけない。そのコストは安い。

・仮に一ヶ月前と同じ状況であるならば、どのように

反応すべきか(国防大臣に)提案してほしい。ポーランドやリトアニアにおける状況を考慮し、我が軍が西側国境で今後どのような行動を取るべきであろうか。

・我々はミンスクで足踏みしているが、この国は小さいわけではない。内務大臣に国内全土における状況を報告していただきたい。

(9/12 大統領公式ホームページ)

●国立科学アカデミーを視察(9/11)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・短期間ではあるが、研究に従事せねばならなくなった時期を覚えている。以降、研究者を尊敬している。

研究以上に複雑で難しい仕事はない。

・国家の重要事項に関し、研究分野の代表の参加なしで決定される事はない。そのため、私は定期的に研究者と相談するようにしている。科学の発展が、我々の未来を決める。

・ソ連時代、ミンスクは多くの先進的発想を実現するパイオニアであった。しかし、長年の繁栄の後、90年代が試練のものとなった。ソ連崩壊は、科学と国民経済の破壊をもたらし、多くの研究施設が崩壊の危機に瀕した。

・現在、ベラルーシ国内には460もの研究機関があり、2万8千人が勤務している。国立科学アカデミーだけで93カ国の研究者と協力を行っている。科学は、国や製造のために稼いでおり、次の五カ年計画の優先事項の一つである。

・人類と世界の繁栄に貢献する国ランキング(Good Country Index)で、ベラルーシは153カ国中、54位である。輸出品の3分の1がハイテク製品である。昨年、我々は頭脳で150億ドルを稼いだ。

・直近数週間において、現在の若者が無知であることが明らかになった。彼らは90年代の困難を知ることができない。人生はネット動画とは異なり、巻き戻すことはできない。

(9/11 大統領公式ホームページ)

●メーゼンツェフ駐ベラルーシ露大使と会談(9/10)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・両国は二国間関係で積もった問題・課題の解決に大きく前進した。

・先週ミンスクで実施されたミシュスチン露首相との会談では非常に素晴らしい合意が達成された。我々は、この合意の発展に従事しており、近くプーチン露大統領と会談予定である。

・9月末、ミンスク市とミンスク州において、第7回ベラルーシ・ロシア地方フォーラムが開催される予定であり、これは二国間の経済的なジャンプ台となろう。

・貴大使は、直近数ヶ月で、過去の大使達が数年かけて行ったことを実現した。

メーゼンツェフ大使の発言要旨は以下の通り。

・ロシアは、州知事や地方首長による大規模な訪問団を準備している。ミンスクは、サンクトペテルブルク(前回のベラルーシ・ロシア地方フォーラム開催地)のバトンを継いでいる。

・(1866年に複写が初版されたヴィテプスク、グロドノ、ミンスク及びモギリョフ州の地形図の収録された書籍を贈呈しつつ)これもまた、ベラルーシ国境の公正さを確認するものであり、異なる見方をしている人々に対する回答でもある。(注:1866年当時、これら各州はロシア帝国に属していた。)

(9/10 大統領公式ホームページ)

●検事総長の解任と任命(9/9)

コニユク氏の解任し、シュヴェダ氏を任命

(9/9 大統領公式ホームページ)

●ロシア・メディアへのインタビュー対応(9/8)

(9/8 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・調整評議会はどんな人々なのか分からないので私は話し合いをしない。彼らは、兄弟国ロシアとの関係を断ち切り、教育と医療を有料化し、我が国産業の諸企業を潰して労働者を失業させる気だ。

・確かに私は少々長居したかも知れない。しかし、今ベラルーシを守れるのは私しかいない。

・2020年12月から21年1月に全ベラルーシ国民会

議を開催し、そこで、非常に必要であれば大統領選挙までを含む我々の行動日時を書き込むことができる。

(9/8 Tut.by 通信)

経済

●ロシア、ベラルーシへ 15 億ドルの再融資を決定。

(9/14 ベラパン通信)

●モギリョフ州投資フォーラム開催

ベラルーシ、ロシア、ドイツ、中国、トルコ、日本等各国から約 200 団体が参加し、約 20 の署名がなされた。日本からは、ベルニホンインターナショナル社が参加した。

(9/11 ベルタ通信)

●国際格付機関 Standard&Poor's ベラルーシの国別信用クレジットウォッチを「ネガティブ」へ引き下げ。格付け自体は「B」で据え置き。また、ベラルーシ銀行、ベラルーシ産業銀行、ベルウェブ銀行の長期・短期金融機関クレジット・ウォッチを「ネガティブ」へ引き下げられた。

(9/11 ベラパン通信)

●2020年1月～7月外貨獲得高、昨年同期対比、約4億ドル(16.5%)減少。

(9/11 ベラパン通信)

●ベラルーシ国内旅行関連企業の半数が、昨年同期対比売上80%以上減少。

(9/10 ベラパン通信)

●年始からのインフレ率、3.8%

(9/10 ベラパン通信)

●ベラルーシ政府、IMF と総額 9 億 4 千万ドルの緊急融資に関し合意できず。

(9/10 ベラパン通信)

●ベラルーシのロシア関連の対外債務(ロシア及びユーラシア安定化発展基金)、10億ドルを超える。

(9/9 ベラパン通信)

軍事・内政

●内務省、13 日の抗議運動において774名を拘束

(9/14 ベラパン通信)

●ミンスク市内での「英雄の行進」に 10 万人以上が参加。また、ミンスク市内の 7 つの地下鉄駅が閉鎖。市内の携帯電話インターネット接続が遮断された。

(9/13 ベラパン通信)

●ベラルーシ国立大学の文学部講師陣、平和的集会と言論の自由に対する自らの権利を守る人々への連帯と支持を表明するビデオメッセージをインターネットに投稿。

(9/13 ベラパン通信)

●女性の行進に 1 万人以上が参加し、30 人以上が逮捕された。同時間帯に独立広場ではルカシェンコ大統領支持集会も実施された。

(9/12 コメルサント通信)

●調整評議会幹部会メンバーのアレクシエヴィチ、国連に対し記者に対する迫害を確認するため視察団の派遣を要請。

(9/11 ベラパン通信)

●ベラルーシ国内で登録されている 15 政党のうち 10 政党の党首が、暴力を批判し、対話と大統領選挙再実施を要請する共通決議を支持。

(9/10 ベラパン通信)

●保健省、新型コロナウイルス感染拡大が確認されている国リストにスペイン、モンテネグロ、アンドラ、マルタを再追加。

(9/10 ベラパン通信)

●ヴィテプスク市民 2 名が在ベラルーシ・スウェーデン大使館に駆け込み、治安部隊が同大使館を囲い込む。

(9/11 ベラパン通信)

●アレクシエヴィチ氏、見知らぬ者がドアホンを繰り返し鳴らしたため、記者や他国外交団に連絡。同氏保護のため救援を要請。

(9/11 ベラパン通信)

●調整評議会幹部会メンバーのズナク氏、逮捕。

(9/9 ベラパン通信)

●7 日に拉致された調整評議会幹部会メンバーのコレスニヴァ氏(ババリコ氏陣営代表)、強制的な出国を拒否するため、ウクライナとの国境で自らの旅券を破り捨てる。

(9/8 ベラパン通信)

●政府と地方機関の権限拡大に関する提案準備のための省庁間作業部会が発足。9 月 20 日までに提案を策定する計画。

(9/8 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ元候補、欧州評議会(CoE)議員会議(PACE)の政治問題・民主主義委員会会合においてビデオ形式で発言し、サヴィヌィフ・ベラルーシ議会上院国際問題常設委員会委員長が同発言へ反論。

チハノフスカヤ氏の発言要旨は以下の通り。

・選挙結果は改ざんされたもので、ルカシェンコには大統領として留任する法的根拠がない。

サヴィヌィフ氏の発言要旨は以下の通り。

・ベラルーシでの抗議活動は外国から計画、調整されたもの。とりわけポーランド軍の心理行動グループの支援を受けた(インターネットメディア)NEXTA を通じたもの。

・ロシア代表もベラルーシへの外国からの干渉に言及し、ベラルーシ人の大多数はルカシェンコ氏を支持

している。

(9/8 ベラパン通信)

(了)